

特進通信～未見の我～

第5号

R 6.10.31

文責 阿部

特進類型の1、2年生が10月29日に静岡大学を訪問し、講演や模擬授業、施設見学に取り組んできました。3年生の進路選択をするうえでも重要な考え方がありましたので、報告します。

高校生が知っておくべき進路選択の考え方 静岡大学 宇賀田教授

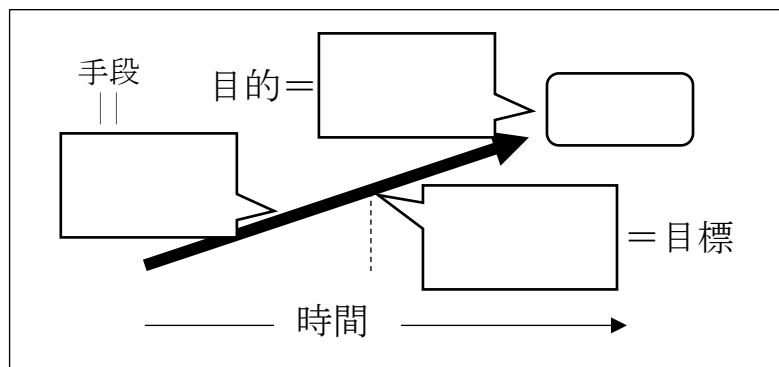
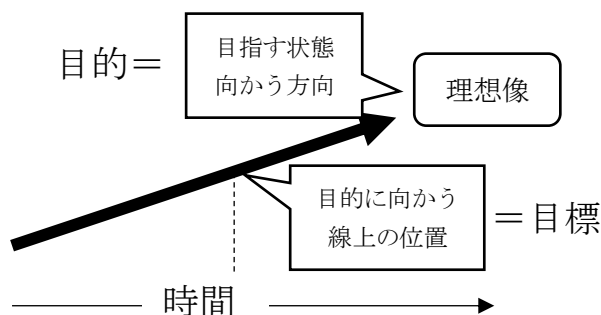
静岡大学でキャリアサポート部門の担当をしている宇賀田栄次先生による講演では、進路の決め方や考え方について講演をいただきました。各校種の違い(下表)を知り、大学に進学する(=学生になる)ことは主体的な学習者に変化することだということを学びました。

高校	勉強することが目的/解法を身につける
専門学校	仕事や生活に必要な力を身につける(例:資格)ことが目的
大学	授業や研究を通して社会の発展に貢献することが目的



また、何気なく使っている「**目標**」と「**目的**」という言葉の違いについて学びました。

特に面白かったのは**目的になりがちな「理想像=なりたい」を、目標や手段に入れ替えながら考えてみる**というやり方です。そうすることで、「なった後」の自分やその先に何をを目指すのかという視点を考えることができます。例えば「大学生になる」ことを目的ではなく、手段として考えると自分がその後に何をやりたいかを自然に考えられるようになりますね。この考え方は社会人になってからも重要なものだと講演を聞きながら感心しました。

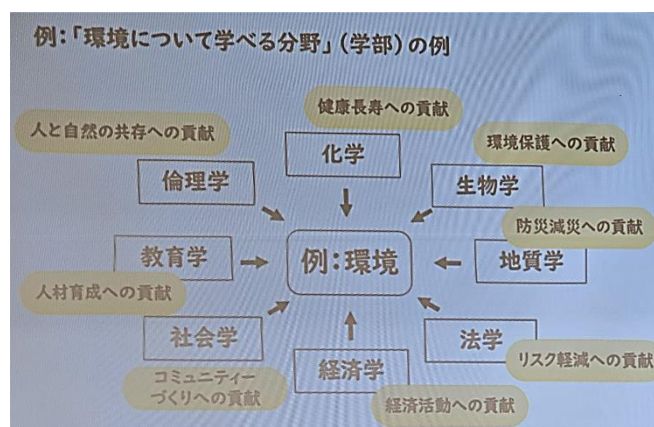


今後「志望理由書」の作成を求められる機会があります。その際、「何を勉強したいのか/何になりたいのか」という視点だけではなく、「**どんな社会課題に貢献できる(したい)のか**」ということを考えることが重要です。学部名は日本全国で590以上と非常に多いですが、学部名はどんな社会課題を意識しているかを表しています。だからこそ、**自分の興味関心を社会課題と結び付けることで新しい考え方や知らなかった学問、そして志望校を見つける**ことにつながるはずで。例えば、1、2年生で実施してきた「みらい学」はそれを考える機会を得ていると考えて主体的に取り組むことが重要ですし、特進類型はキャリアアップ研修や夢ナビライブなどでその視点を学んできたともいえるでしょう。

起	0から1を仕掛ける人材
承	0から1をN倍化する構造をデザインする人材
転	1をN倍化する過程で効率化・リスクを最小化する人材
結	最後に仕組みをきっちりオペレーションする人材

るでしょう。様々な活動に挑戦する中で、自分の特性や関心を知り、それも生かして進路選択を考えることも大事です。改めて学びみらいPASSの結果を見ると参考になるかもしれません。

最後に進路を決めるためには ①**選択肢を減らさない** ②**自分の「判断基準」を持つ** ということが重要だという話をいただきました。進路選択をする際にはどうしても「絞り込んでいく」視点が強くなりがちです。しかし、幅広いことに興味や知識を持っていることは、進学後の進路選択でも生かされるということが大学生との交流を通して分かったのではないのでしょうか? また、思いがけないところから進路が変わることや、自分の思い込みから脱却することの必要性も学べた人もいたでしょう。今回の講演を通して、進路の考え方の視点をより広げていきましょう。



日本経団連の「起承転結」モデル(左表)の紹介や、基礎科学と応用科学との違いについての説明もありました。「なぜこうなっているのだろう」という本質を追求することが好きな人もいれば、「どうしたらできるだろう」と物事を展開することが好きな人もい

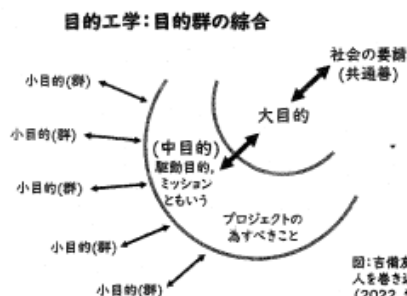
大学生と「共創」について考える

今回の大学訪問の午後の部では、静岡大学のグローバル共創科学部の学生と一緒に「パーパスモデル」の作成というアカデミックな課題に取り組むワークショップを行いました。パーパスモデルとは「パーパス（共通目的）を中心としたプロジェクトの設計図」のことで、様々な社会課題に取り組む上でどのような関係者（ステークホルダー）がいるのかを考え、その関係者がどのような役割を担っているのかをまとめる図表のことで、非常に先進的な考え方です。

大学で学ぶ概念を高校生も事前課題として準備をしていき、グループワークに臨みました。最初はなかなか意見が出なかったようですが、徐々に様々な視点からアイデアを出すことができました。また、今回のワークショップを通して、みらい学（総合的な探究の時間）や日々の授業で学んだこととの関連を発見する等、充実した研修となりました。

共通目的をまとめる

共通目的は、立場の異なるステークホルダーが「自分ごととして」取り組むミッション



図：古備友理恵・近藤智朗『パーパスモデル
人を巻き込む共創のつくりかた』
(2022 学芸出版社)より

共通目的をまとめる

「大目的だけを掲げて、誰も否定しない当たり障りのない目的では誰も自分ごとになりにくく、小目的がどれだけ集まっても、それぞれが自分のための目的でしかないため、誰かと一緒に取り組むものにはなりにくい。その中間で小目的と大目的をつなぐ『自分たちごと』にできる目的が重要である。」

「共通目的は自分ごと・組織ごとよりも包括的で、社会全体の共通善よりも具体的な“ちょうどいい解像度”で語れるものだイメージできる。ここではそのちょうどいい解像度を『ざっくりしすぎないけど、それぞれが自分とつながっている感じがするくらいのもの』と表現しておく。」

「誰が」(課題の当事者=人 その先にいる人は?)

「何をどのようにして」(課題の解決の方向性は?)

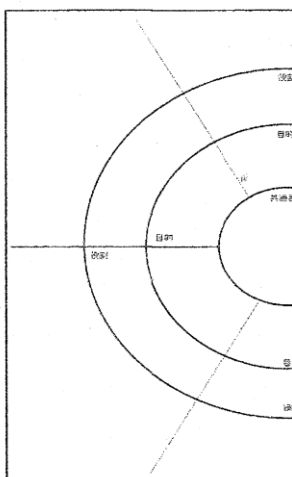
「どんな状態にする」(課題を解決したことで得られる変化)

ステークホルダー

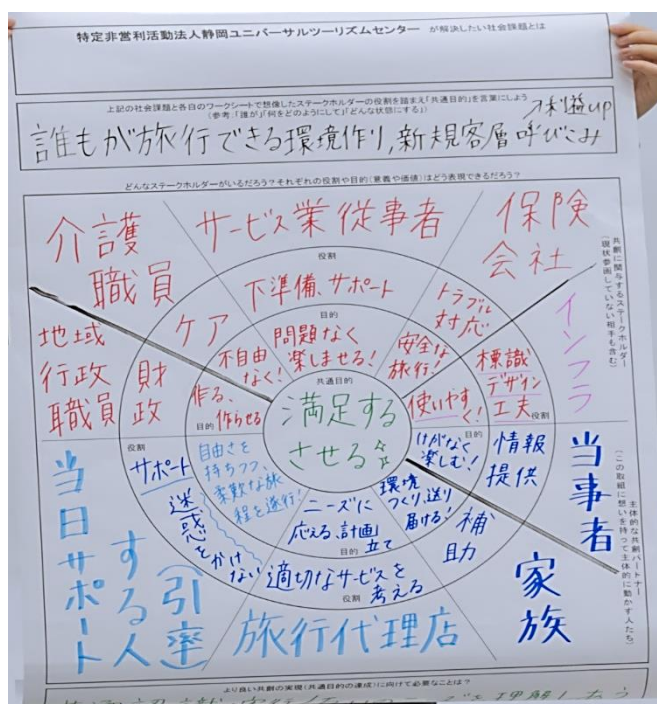
共創に関与するステークホルダー
(3条件を満たすとは限らない)

主体的な共創パートナー
(以下の3条件すべてを満たす)

- 共通目的に賛同できる
(インセンティブがある)
- リソースを提供する
(資金、場所、労力などの提供)
- 主体的に取り組む



ステークホルダー





静大 OG、現役静大生によるトークセッション



目標と目的の違いとは??



パーパスモデルについてのグループワーク



大学生と一緒にアイデアを出しました



後半になるにつれて議論も真剣に…



伊東高校のOB、OGにも参加してもらいました



宇賀田先生をはじめ、静大生の皆さんありがとうございました！

生徒の感想

講演会・トークセッションで学んだこと（抜粋）

本気でやる。というのは単純だし、わかりやすい姿勢だと考えればわかることだが、自分の中であまり考えていない部分だったので、ぐさりと来ました。本気は自分にしかわからないし、手を抜こうと思えば簡単にできることだからこそ大切だと思った。
大学では、高校と違って自分の責任で色々と選べる事が出来て、一人暮らしなどもする事で自立が出来そうだなと話を聞いて思いました。他にも、アルバイトなどを始めたりサークルに入ったりすることで人間関係が広がるということが分かりました。
段階が進むにつれて目的だったものが目標となり、その先の目的が新たに設定されるということだと分かった。
高校でも大学でも進路が途中で変わることがあるんだなと思った。また、その時の進路の決め方で、自分のやりたいことを優先していたのでその考えが大切だとわかった。
たった4・5歳差で人生の経験などをアドバイスとして下の世代に与えることができるというところがすごかった。自分も教えられる先輩になりたいと思えました。
私は社会貢献と聞いて難しく思い、具体的になにをしているのか思いつかなかったが、思い出してみると夢ナビの講座で見た大学生が地域活性化のために教会以外での結婚式をつくるという活動を思い出した。これも社会貢献であり、私も興味があった。
大学生のお話を聞いていく中で自由が増えたと言っていたり、自分の学部について語っていたりするのを見て好きなことを好きなようにできるのが大学の魅力だと感じた。
専門的な学部で学んだらその職に就くのが当たり前だと思っていて、これは学びたいけどこの職に就きたい訳では無いなと思う部分が今までであった。だが、違う可能性もあって、どんな事でも必ず学んだことを活かすことが出来ること、色々な選択肢があること、そして選択肢を自分で掴んでいくことが大切だと気づきました。
とっても自由な大学生活を思い描いていましたが、実際の大学生は、自分のやりたいことや知りたいことに対してまっすぐ向き合い、自ら学習を深めていくスタイルで、そこもギャップに感じました。

パーパスモデルについてのグループワークで学んだこと（抜粋）

高校生という立場から物事について考えると自分ごととして課題を捉えることができて、より役割、目的を具体的に考えられるとわかりました。またどのステークホルダーにも、利得がないといけないのが鍵だと思いました。そしてこれがみらい学で学んだ「目標共有」につながっていると思いました。
大学生の方の意見で高齢者や障がい者の方が「介護をしてもらっている」という、自分が周りに迷惑をかけてしまってる意識がバリアとなってしまっているという意見を聞いて、そ

の考え方は盲点だったなと思いました。
グループ活動を行うからこそ生まれる新しい考えが多くあって面白かった。どんな社会課題にも自分が関連することはたくさんあることを頭に入れて、これからは過ごしていきたい。
社会の状態を変えるものはあまり身近でないものばかりだと考えていたが、身近なものも多く存在していた。（宿泊業者、地域団体、老人ホームなど）
目的を具体的にしすぎると、実現可能なのか曖昧になってしまい、目的を設定した理由が分かりづらくなってしまうため、目的と役割で一貫性を持たせることが大切だと思った。
共通目的をつくるのが一番難しいと感じた。ちょうどいい感じの解像度がなかなか言葉にできず、特に自分と繋がる部分とリンクさせるのが自分はなかなかできなかった。
ステークホルダーが「地域の人」という意見でも、学生なのか、地域でお店をしている人なのかなど具体的にすると意見が分かれることに気がつきました。
自分一人で考えるといろんな視点から考えることが難しく、なかなか上手くいかない事を実感しました。自分では思いつかなかった意見を聞くことが楽しいと思うことができました。一つの課題の共通目的やステークホルダーについて、時間をかけて考えることの重要性がわかった気がしました。
利が無いけど必要な役割があるステークホルダーにはどのようにして企画に参加させることができるのか。お金を払う以外に方法はないのか疑問に思った。

今後自分がやるべきこと、やりたいこと（抜粋）00

「〇〇学を学んでおけばいい」「〇〇大学に行けば大丈夫」ではなく、自分の将来に必要なことは何なのか自分の目で見て確かめていきたい。
そもそもどんな大学、学部があるのか分からないのでそこを知るところからはじめたい。
選択肢を増やしておいた方が良いという意見を色々な方がされていたので近くの大学だけでなく、全国の大学に興味を持ち、様々な学問にも関心を持ちたいと思った。
苦手意識があるからこそ、自分の自信に繋げるために毎日のルーティーンとして少しづつ力をつけていきたいと思った。
今回の大学訪問を通してひとつに絞る必要は無い、むしろひとつに絞ってしまう方がもったいないと教えていただきました。特に1年生のうちは様々な大学や学問の種類について知り、興味のあるものを見つけていきたいと思いました。
単調な一本道じゃなくても、少し外れた道に意外と自分の行きたい道があったり、自分の興味に繋がっていることがあるため、逆に自分の行きたい道と離れた道を調べてみたいと思いました。
無理に受験勉強をするなどを意識するのではなく、今日の前にあること(定期試験、模試)などに全力で取り組むということが大切だと思った。

特進類型1・2年生の皆さん、お疲れさまでした！！

今回の学びを今後に生かしていきましょう。